

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2015 年 2月

「聖書」「このお方の来臨を迎える準備ができているか」

「サタンの驚くべきわざ（心霊術）」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「聖書」

4

聖書の教え

朝のマナ

「このお方の来臨を迎える準備ができていますか」

6

われらの主よ、きたりませ

現代の真理

「悩みの時」

35

三重のメッセージ - 第三天使のメッセージ

力を得るための食事

「白菜のナムル」

44

お話コーナー

「わたしたちのために嘆願して下さいませんか」

46

教会

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

電話：0494-22-0465

FAX：0494-26-5059

【高知集会所】

〒780-8015 高知県高知市百石町 1-17-2

電話：088-831-9535

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21

電話：0980-55-8136

アクセス

ホームページ：<http://www.4angels.jp>

メール：support@4angels.jp

発行日 2015 年 1 月 30 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty Images on front cover;

HighRes on pages 6

生命の木にいたる道

アダムとエバは、エデンの家郷を失わねばならないことを知らされた。彼らは、サタンアの欺瞞に負けて、神は、うそつきだというサタンのことばを信じた。彼らの犯罪によって、サタンが一層たやすく彼らに近づく道が開かれた。彼らがこれまでどおりエデンの園に居ることは安全ではなかった。なぜなら、罪の状態のまま生命の木の実を食べて、いつまでも罪の生活をつづけるおそれがあったからだ。彼らは幸福なエデンに居る権利を一切失ってしまったことをみとめたが、しかし園に残ることを許していただきたいと嘆願した。これからは神に絶対的に服従しますと彼らは約束した。けがれのない状態から不義へ転落したことによって得られたものは、力ではなくて大いなる弱さであることを彼らは教えられた。けがれのない、幸福な、聖なる状態にあった時に、きよい心を保つことができなかったのだから、罪を意識するようになった今の状態では、真実と忠誠を保つ力はますますない。彼らは、はげしい苦痛と後悔の念に満たされ、罪の罰は死だということを、いまみとめた。

天使たちは、ただちに生命の木にいたる道を守るように、命令をうけた。アダムとエバが、神に従わないで、神の不興をこうむったのちも生命の木の実を食べて罪の生活をつづけるようにというのが、サタンのたくらんだ計画だった。しかし聖天使たちは、生命の木にいたる道をさえぎるためにつかわされた。天使たちのまわりには、四方にきらめく光があつて、それは輝く剣のようにみえた。(生き残る人々 54, 55)

聖書の教えV

2章 聖書

聖書は、神の愛の書であり、人類の起源、墮落、そして贖いについて説明しています。そこには聖霊の導きの下に、わたしたちの唯一無謬の信仰と実践の規則として、男女への神のみ旨の十分な啓示があります（ヨハネ 5:39; 詩篇 89:34 (cf. マタイ 22:29; ヨハネ 7:17) ; ルカ 24:44, 45; 詩篇 119:104, 105; イザヤ 8:20; テモテ第二 3:15)。

聖書（旧約と新約）は、わたしたちを教え、正しくし、善悪の違いを示す権威書です（マルコ 12:24; 使徒行伝 17:11; テモテ第二 3:16, 17; ヤコブ 1:22, 23; ペテロ第一 1:22, 23）。ですから、わたしたちは個人個人、「主はこう言われる」を基に、神のみ前に、また互いの関係を持って立たなければなりません（マタイ 7:12; ヨハネ 8:32; 16:13; 17:17; テサロニケ第二 2:13）。

旧約新約の両方において、神の人々が聖霊によって動かされたときに、彼らと共にあったキリストのご臨在が、記された神のみ言葉の起源です（ペテロ第二 1:21; テモテ第二 3:16; ルカ 16:29, 31; ヨハネ 5:46, 47）。それらの神聖な靈感の証拠は聖書自体の中に見出されます（ペテロ第一 1:10-12; テサロニケ第一 2:13）。

聖霊の働きにより、聖書自体が自らの解説書であり、人間の伝統や問答書が必要としません（イザヤ 28:10; 34:16; ペテロ第二 1:19, 20）。もしわたしたちが聖書と調和して生きるなら、主の約束と祝福はわたしたちのものです（ルカ 11:28; マタイ 4:4; 7:21, 24, 25; ヨハネ 6:63; 8:31）。

「聖書全体はキリストを表わすものであって、救い主は、ご自分に従う者の信仰をみことばの上に固くすえようと望まれた。キリストの目に見える存在がとり去られたとき、みことばが彼らの力のみなもとでなければならない」（各時代の希望中巻 140）。

「聖書はあらゆる歴史の中で最も驚くべきものである。なぜなら、それは、有限な思いによるのではなく、神の制作だからである。それはわたしたちを何世紀も通じて万物の始まりにまで連れて行き、聖書がなければ知りえない時代と光景の歴史を提示する。それは墮落した世界を救うための神のみ摂理の働きにおいて神の栄光を明らかにする。もっとも単純な言葉で、福音の強力なちからを提示

し、その力を受け入れるなら、サタンの戦車につながれた人の鎖を断ち切るのである」(クリスチャン教育の基礎 377)

「聖書のどの部分も、神の靈感によって与えられたもので、それはわれわれの益となるのである。われわれは旧約聖書に対しても新約聖書に劣らない注意を払うべきである。旧約聖書を研究してみると、不注意に読む人にはさばくとしかみえないようなところに、生ける泉がわき出ているのが見いだされるのである」(教育 226)。

「天によって計画されて結果を果たすのは、単にみ言葉を読むことによるのではない。意図された善をわがものとするには、神のみ言葉に表された真理が心の中に入る道を見出さなければならない」(クリスチャン教育の基礎 131)。

「聖書全体はキリストのうちに表された神の栄光の啓示である。受け入れられ、信じられ、従われるならば、それは品性を変化させる偉大な手段である。そしてそれだけが知的教養の確かな手段なのである」(教会への証 8 巻 319)。

「信仰の目をもってイエスをたえずながめることによって、われわれは強められる。神は、飢えかわいているご自分の民に最もうまい啓示をお与えになる。彼らはキリストが自分自身の救い主であることを発見する。キリストのみことばを食べるときに、彼らは、それが霊でありいのちであることを知る。みことばは、生れながらの世俗的な性質を滅ぼし、イエス・キリストのうちにある新しいいのちを与える。聖霊は、助け主として魂にくだる。人を生れ変らせる神の恵みの力によって、神のみかたが、弟子のうちに再現され、彼は新しい人間となる」(各時代の希望中巻 141)。

「聖書、聖書だけが、わたしたちの信仰の基礎〔である〕」(エレクテッド・メッセージ 2 巻 85)。

「神はこの地上に、聖書、そしてただ聖書だけをすべての教理の基準、すべての改革の基礎として保持する一つの民を、お持ちになるであろう。学識者の意見、科学の推論、教会会議の定めた信条や決議(これらは、教会の数が多くてその主張も違うように、おびただしい数にのぼって内容も千差万別である)、大衆の声、—これらのうちの一つであれ全部であれ、それをもって信仰上の事柄に関する賛否の根拠と見なしてはならない。どんな教理や戒めでも、それを受け入れる前に、『主はこう言われる』という明白な事実をその裏づけとして要求すべきである」(各時代の斗争闘下巻 360, 361)。

われらの主よ、きたりませ

Maranatha



2月「このお方の来臨を迎える準備ができているか」

クライマックスの瞬間

「その来る日には、だれが耐え得よう。そのあらわれる時には、だれが立ち得よう。彼は金をふきわけける者の火のようであり、布さらしの灰汁のようである。」(マラキ 3:2)

神が山に下って律法を宣言なさろうとしていたとき、イスラエルの民は、その罪深さのために神のご臨在の輝く栄光によって焼き尽くされることのないように、そこに近づくことを禁じられた。神の律法を宣言するために選ばれた場所に、こうした神の威光があらわれたとすれば、主が、これらの聖なる律法を執行するために来られる審判は、どんなにか恐るべきものであろう。主の権威をふみにじってきた者たちは、最後の報復の大いなる日に、どうしてその栄光に耐え得よう。……

神のご臨在がシナイで現わされたとき、主の栄光は全イスラエルの目の前で焼き尽くす火のようであった。しかし、キリストが聖天使たちを従えて栄光のうちに来臨されるとき、全地は神のご臨在の恐るべき光で燃えるように輝くであろう。

人間が創造されて以来、シナイで律法が宣言されたときのような神の力のあらわれは、目撃されたことがなかった。……自然界の恐怖すべき激動のさなかに、神の声がラッパの音のように雲の中から聞こえてきた。山はふもとから頂まで震え、イスラエルの民は恐怖で青ざめ、震えながら地上にひれ伏した。このようにみ声をもって地を揺り動かされたお方は、次のように宣言された。「わたしはもう一度、地ばかりでなく天をも震わそう」。……

モーセが、あかしの板を受けて神の臨在のもとから山を下ってきたとき、罪あるイスラエルは彼の顔を輝かしている光に耐えられなかった。まして、律法を犯し、贖罪を拒んだ者の審判のために、全天の万軍に囲まれ、父の栄光に包まれて現われる神のみ子を、罪人たちはどうして仰ぐことができるであろう。……

しかし、神の審判のラッパを聞いても、神の子らには恐れをいづく理由がない。「主はその民の避け所、イスラエルの人々のとりで である」。神の律法を犯す者に恐怖と滅亡をもたらすその火が、従順な者には「言葉につくせない、輝きにみちた喜び」を与える。(人類のあけぼの上巻 400 ～ 403)

高い標準

「あなたがたはわたしに対して聖なる者でなければならない。主なるわたしは聖なる者で、あなたがたをわたしのものにしようと、他の民から区別したからである。」
(レビ記 20:26)

わたしは、また、悩みの時に、聖所に大祭司がおられないで神のみ前に生きるためにはどのような状態でなければならないかを悟っていない人が多くあるのを見た。生ける神の印を受け、悩みの時に保護される人々は、イエスのかたちを完全に反映していなければならない。

わたしは、多くの人々が、必要な準備をおろそかにしてしながら、主の日に立ち得る神のみ前に生きるにふさわしいものとなるために、「慰めの時」と「春の雨」（後の雨）とを待っているのを見た。ああ、わたしは、なんと多くの人々が、悩みの時に、避け所がないのを見たことだろう。彼らは必要な準備を怠った。だから、彼らは、聖なる神の前に生きるのに適したものとするために、すべての者が持たなければならない慰めを受けることができなかった。……すべての真理に従って、魂を清めることをしない者は……災害がくだるときになって、自分たちが建物に合わせて切り刻まれ、四角にされなければならないことを悟るのである。しかし、その時には、……天の父の前で彼らのとりなしをしてくださる仲保者はおられない。この時に先だって「不義な者はさらに不義を行い、汚れた者はさらに汚れたことを行い、義なる者はさらに義を行い、聖なる者はさらに聖なることを行うままとさせよ」という厳粛な宣言が発せられたのである。

すべての罪、誇り、利己心、世を愛する心、すべての悪い言葉や行為に勝利するのでなければ、だれひとりとして、「慰め」にあずかることができないのを、わたしは見た。であるから、われわれは、ますます主に近づき、主の日の戦いに立ち得るために必要な準備をするように、熱心に求めなければならない。神は聖であられて、神のみ前に住むことができる者は聖なる者だけであることを、すべての者が覚えているようにしよう。(初代文集 149, 150)

わたしたちは今日、言葉と行為で、自分が罪を犯さないように見張っているべきである。……神を求め、そのご臨在を得なければ、満足して落ち着くことはしないと決心しなければならない。今日が自分に与えられている最後の日であるかのように、見張り、働き、祈るべきである。そうすれば、わたしたちの生涯はどれほど真剣になるであろう。わたしたちは自分の言葉と行為において、どれほどイエスに近く従うことであろう。(教会への証 5 巻 20)

量られる時

「主はすべてを知る神であって、もろもろのおこないは主によって量られる。」(サムエル記上 2:3)

天使が手に秤を持って、神の民、とりわけ若い人々の思いや関心を計ろうと立っているのをわたしは見た。一方の天秤皿には天に向かっての思いや関心が乗り、もう一方には地に向かっての思いや関心が乗っていた。そしてこの天秤皿には物語を読むことや、衣服や見栄への思い、虚栄、誇りなどがみな投げ込まれた。ああ、なんと厳粛な瞬間であろう。神の御使たちは秤のそばに立ち、神の子だと公言する人々一世に対して死に、神に生きていると主張している人々への思いを量っていた。地と虚栄と誇りの思いで満たされた天秤皿は、おもりが次々と皿から転がり出たにもかかわらず、すぐに下がった。それに対して天に向かう思いや関心を乗せた天秤皿は、地の事柄を乗せた皿がすぐに下がったように、すぐ上ってしまった。そして、ああ、それはなんと軽かったことであろう。わたしはこのことを自分が見た通りに話すことはできる。しかし、秤を持った天使が、神の民の思いや関心を量っているのを見た時に、わたしの心に残された厳粛にして生々しい印象を伝えることは決してできない。天使は言った、「そのような人が天国に入れるであろうか。否、決して入れない。彼らに、今彼らの持っている希望はむなしく、ただちに悔い改めて、救いを得ない限り、彼らは滅びなければならないことを告げなさい」。……

わたしは多くの者が自分たちの間で自らを評価し、他の人の生き方と自分の生き方を比べているのを見た。こうあるべきではない。キリスト以外、だれもわたしたちの模範として与えられてはいない。主はわたしたちの真の型であり、一人びとりが主を模倣することに秀でるために奮闘すべきである。……

ある人は、自己否定もしくは自己犠牲が何であるか、あるいは真理のために苦しむということがどういうことかをほとんど知らないことをわたしは見た。しかし、だれも犠牲を払わずに天国へ入る人はいない。自己否定と自己犠牲の精神を心に抱くべきである。ある人は神の祭壇の上に、自分自身、すなわち自分の体を犠牲として捧げたことがない。彼らは性急で気まぐれな気分をほしいままにし、食欲を満たし、神のみ事業にかまわず、自分自身の利益に注意を向ける。永遠の命のためにどんな犠牲でもよこんで払う人は、永遠の命を得る。そして、この命はそのために苦しむ価値のあるものであり、自己を十字架につけ、あらゆる偶像を犠牲にする価値のあるものである。あふれるばかりの永遠の重い栄光はあらゆるものを飲み尽くし、あらゆる地上の楽しみは色あせるのである。(教会への証 1 巻 124 ～ 126)

あなたはテストに耐えるであろうか

「あなたの神、主がこの四十年の間、荒野であなたを導かれたそのすべての道を覚えなければならない。それはあなたを苦しめて、あなたを試み、あなたの心のうちを知り、あなたがその命令を守るか、どうかを知るためであった。」(申命記 8:2)

神はご自分の民をためされる。……もしメッセージ〔1844年の宣言〕が、わたしたちの多くが想像したように、短期間しか続かないものであったなら、彼らには品性を発達させる時間はなかったであろう。多くの者は、原則や信仰からではなく、感情から動いた。そして、この厳粛な恐るべきメッセージは彼らをかきたてた。それは彼らの感情に働きかけ、彼らの恐れを引き起こした。しかし、神が計画された働きを成し遂げなかった。……

神はご自分の民を一步一步導かれる。このお方は心の中にあるものを明らかにするよう意図された様々な地点へ彼らを導かれる。ある者はある点については耐えるが、次で落第する。前進するごとに少しずつ、心はより厳密に試され、テストされる。もし、神の民であると公言する者が、この正当な働きに対して自分の心が反対していることに気づくなら、たしかに彼には勝利するためになすべき働きがあることを自覚すべきである。……ある者は、ある点は喜んで受け入れようとする。しかし、神が彼らを他の試金石となる点へ導かれると、しり込みして身を引く。なぜならその試練が、自分の大切にしている何かの偶像を直接攻撃することに気付くからである。ここに、彼らには、イエスを閉め出す何かが自分の心にあることを知る機会となる。彼らは何かを真理よりも尊重し、そのために彼らの心はイエスを受け入れる準備ができていないのである。個人個人はテストされ、自分の偶像をいけにえとして捧げるかどうかを見るために、ある一定の期間試される。……あらゆる点において標準に達し、どんな犠牲を払ってもあらゆるテストに耐えて勝利する者たちは、まことの証人の勧告に注意を払ってきた。そして彼らは後の雨を受け、それによって昇天のためにふさわしい者になるのである。

神はこの世でご自分の民を試される。……この世において、この終わりの時代に、人はどの力が自分の心に影響を与え、自分の行動を支配しているかを表す。もしその力が神の真理の力であるなら、よい働きへと導く。その力は受ける者を高め、その人の神聖な主に似た気高い心をもった寛大な者にする。……

若い方々、また年配の方々よ、神は今あなたを試しておられる。あなたは自分の永遠の運命を決定しつつあるのである。(教会への証 1 巻 186 ～ 189)

誤ることのない導き手

「御言を行う人になりなさい。おのれを欺いて、ただ聞くだけの者となってはいけない。」(ヤコブ 1:22)

神はご自分のみ旨を知っている者に、そのみ言葉を行う者になるように求めておられる。弱さや二心、また優柔不断はサタンの攻撃を引き起こす。そしてそれらの特性が育つままにしておく者は、押し寄せる誘惑の波によって、なすすべもなく打ち負かされてしまう。キリストのみ名を口にする者はみな、クリスチャンの生ける頭であられるキリストの満ち満ちた高さにまで完全に成長するようにと要求されている。

砂州を越えたり、岩のある川を上るときに、船員が水先案内人を必要としているのとちょうど同じように、人生において、多くの困難を乗り越えるのに、わたしたちは皆、導き手を必要としている。そしてこの導き手はどこで見つけられるだろうか。わたしたちはあなたに……聖書を指し示す。神の靈感を受けて、聖なる人々によって書かれたこの聖書は、老齢者にも若者にもその義務を非常にはっきりと正確に指し示している。聖書は知性を高め、心を和らげ、精神に嬉しさと聖なる喜びを与える。聖書は品性の完全な基準を提供する。それは、人生航路の終局に至るまで、どのような状況下にあっても、無謬の導き手である。この聖書をあなたの相談相手、日常生活の規則として受け入れなさい。……

聖書の中には真理という何千もの宝石が、表面的な探求者からは隠されている。真理の鉱脈は決して掘り尽くされることはない。あなたが謙遜な心で聖書を探れば探るほど、ますます興味がわき、ますますパウロと共に次のように叫びたくなる、「ああ、深いかな、神の知恵と知識との富は。そのさばきは窮めがたく、その道は測りがたい」。

あなたは毎日聖書から何か新しいことを学ぶべきである。隠れた宝を探し出すように、聖書を探求しなさい。なぜなら、そこには永遠の命のみ言葉があるからである。これらの聖なる書き物を悟るために、知恵と理解力を祈り求めなさい。もしあなたがそうするなら、神のみ言葉の中に新しい栄光を見出すであろう。あなたは真理と結びついた主題に新しく尊い光を受けたことを感じ、絶えず聖書に新しい価値を見出すであろう。……

恵みのあらゆる方法を勤勉に用いなさい。それによってあなたは品性が変えられ、キリスト・イエスにある男女の完全な姿にまで成長することができるためである。(教会への証 5 卷 263 ～ 267)

答える用意

「ただ、心の中でキリストを主とあがめなさい。また、あなたがたのうちにある望みについて説明を求める人には、いつでも弁明のできる用意をしていなさい。」(ペテロ第一 3:15)

現代の真理に関する知識があると公言する多くの者が、自分の信じてることについて知らないことをわたしは示された。彼らは自分の信仰の根拠を理解していない。彼らは現代のための働きについて正しい見解をもっていない。試練の時が来ると、今他の人々に教えている人の中には、自分たちの取っている立場を吟味した時に、満足のいく理由を挙げられない多くの事柄を見出す人々がいる。このように試されるまでは、彼らは自分たちの大変な無知に気づかなかったのである。そして教会の中には、自分たちが信じていることを理解していると思い込んでいる人々が多くいる。しかし争闘が起こるまで、彼らは自分の弱さに気づかないのである。同じ信仰をもつ人から引き離され、一人で立って、単独で自分の信仰を説明させられるとき、彼らは自分が真理として受け入れていたことについての考えが、どれほど混乱しているかを知って驚く。……

神はご自分の民を目覚めさせられる。もし、他の手段が失敗するなら、異端が彼らの間に入り、彼らをふるって、麦からもみがらをより分けることになる。主はご自分のみ言葉を信じるすべての者に、眠りから目覚めるよう呼び求めておられる。現代にふさわしい、尊い光が来た。……信者は、何が真理を構成するかについて、推測や不明瞭な考えに安んじていてはならない。彼らの信仰は神のみ言葉の上に堅く基礎を置かなければならない。そうすれば試練の時が来て、自分の信仰のために答弁するよう議会に引き出されるとき、自分のうちにある望みについて、柔和と畏れをもって理由を述べることができる。(教会への証 5 巻 707, 708)

キリストのしもべは自分の信仰を調べられるために引き出されたとき、定まったことばを用意しておくのではない。彼らの準備は、日々心の中に尊い神のみことばの真理をたくわえ、キリストの教えを食し、祈りによって信仰を強くすることによってなされるのである。そうすれば、裁判に引き出されるときに、聖霊が聞きに来る人々の心に届くまさにその真理を記憶によりみがえらせて下さるのである。

神は、勤勉に聖書を研究して得た知識を、必要とするまさにその時に、記憶によりみがえらせて下さる。(安息日学校への勧告 40, 41)

満たされる宴会

「義に飢えかわいている人たちは、さいわいである、彼らは飽き足るようになるであろう。」(マタイ 5:6)

神の事柄に関して成長していない不具の状態で満足している男女が、突然天国へ移され、ほんのつかの間、そこに常にやどっている高く聖なる完全な状態—すべての魂が愛に満たされ、すべての顔が喜びに輝いているところ—を目撃させてみたら、…… お尋ねするが、そのような人が天使の群れと混じって、彼らの歌に参加し、神と小羊から発散する純潔で高められた歓喜の栄光に耐えることができるであろうか。否、それはできない。

霊的な働きに喜ぶように精神を訓練している者こそ、天に移されても、天国の純潔とたぐいのない栄光に圧倒されることのない者である。あなたは芸術について素晴らしい知識を持っているかもしれないし、科学に詳しいかもしれない。また音楽や書法に秀でていて、あなたのやり方が友人を喜ばせるかもしれない。しかしこれらの事柄は、天国への準備に関係があるであろうか。あなたが神の裁きの場に立つ備えに、これらは何か関わりがあるであろうか。

欺かれてはならない。神は侮られるような方ではない。聖潔以外の何ものも、あなたを天国のために準備させることはない。あなたに純潔で高貴な品性を与え、近づくことのできない光の中に住んでおられる神のみ前に出ることができるようにするものは、まじめで経験に基づいた敬神だけである。天の品性が地上で身につかなければならない。さもないと、決してこの品性を身につけることはできない。(教会への証 2巻 266, 267)

善と真の聖潔を望むのは、前進している限り正しいことである。しかし、もしあなたがその願いだけにとどまるなら、何の役にも立たない。良い目的は正しいものであるが、堅く決心して行わなければ何の役にも立たないことがわかる。多くの者がクリスチャンになる望みと願いを持ちながら滅んでしまう。彼らは、熱心に努力をしないので、秤で量られて、足りないことが見いだされるからである。意志を正しい方向に働かせなければならない。わたしは心を尽くしてクリスチャンになろう。完全な愛の長さや広さ、高さや深さを知ろうという意志である。

イエスの次の言葉を聞きなさい、「義に飢えかわいている人たちはさいわいである。彼らは飽き足りようになるであろう」。義に飢えかわいている魂を満たすために、十分な備えがキリストによってなされている。(同上 265, 266)

道徳的独立

「だから、彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。そして、汚れたものに触れてはならない。触れなければ、わたしはあなたがたを受けいれよう。そしてわたしは、あなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであろう。全能の主が、こう言われる。」(コリント第二 6:17, 18)

多くの人は今日顔に覆いがかかっている。この覆いは世の習慣や慣例との親和性であり、彼らから主の栄光を隠してしまう。神は、わたしたちが目をご自分に留め続け、それによってこの世の事柄が視野から消えることを望んでおられる。

真理が実生活の中に持ち込まれるとき、聖書の要求に応じるために、標準はますます高く上げられるべきである。このことは、必然的に世の流行や習慣、ならわし、処世訓に反対することになる。世の影響は、キリストに従う者たちをキリストの柔和と恵みという真の原則から一掃するために、海の波のように彼らに打ちつける。しかし、わたしたちは原則に対して岩のように堅く立つべきである。これを行うには、道徳上の勇気が要求される。そして、魂が永遠の岩に根ざしていない者は、世の風潮に押し流されてしまう。わたしたちは自分の命がキリストと共に、神のうちに隠されているときだけ堅く立つことができる。道徳的独立は、世に抵抗するときのみ、完全に確立される。神のみ旨に完全に従うことによって、わたしたちは有利な立場に置かれ、世の習慣や慣習から決定的に離れる必要があることが分かる。わたしたちは自分の標準を世の標準のわずかに上に置くのではなく、はっきりと明白な区別をすべきである。……

永遠の命という大変貴重な宝を得るのは簡単なことではない。だれも世の風潮に流されながら、これを得ることはできない。人は世から出てきて、汚れたものから離れ、ふれてはならないのである。だれでも世の人のように行動するなら、必ず世の風潮に押し流されるのである。辛抱強い努力なくして、上へ向かって進歩をすることはない。勝利したい者はキリストにしっかりとつかまっていなければならない。彼はふり返ってはならない。そうではなく、目をつねに上に向けて、次々と恵みを得なければならない。個人個人の警戒が安全の代価である。……

万物の終わりは間近である。今、神のために戦うため、武装し、装備する必要がある。(教会への証 6 巻 146 ~ 148)

ここに偶像があるか

「子たちよ。気をつけて、偶像を避けなさい。」(ヨハネ第一 5:21)

神の真の子は皆、麦のようにふるわれる。そして、ふるわれる過程で、神から心をそらす、どのように大切な楽しみも犠牲にしなければならない。多くの家庭で、暖炉の上やスタンドやテーブルの上は、飾り物や写真であふれている。……このようにして、神と天の事柄に向けられるべき思いが、ありふれた事柄に引き降ろされている。これは偶像の一種ではないであろうか。このようなことに費やされている金銭は、他人を祝福し、苦しんでいる者を助け、裸の者に着せ、飢えた者に食べさせるために用いるべきではないだろうか。この金銭は神の働きを進展させ、地上に神の王国を建てるために主の倉に貯えられるべきではないだろうか。

このことは非常に重要であり、あなたを偶像礼拝の罪から救うために強く勧められている。イスラエルの聖なるお方が「あなたはわたしのほかになにものをも神としてはならない」と仰せになるみ言葉に、あなたが従うなら、祝福があなたの魂にもたらされるであろう。多くの人は、家が満ちあふれるほどの不必要な飾りに時間と思いを充てることによって、自分にとって不必要な心配や不安を作り出している。神の力が彼らをこのような状態から目覚めさせるために必要とされている。なぜなら、それはあらゆる点で偶像だからである。

心を深く探られる方は、あらゆる種類の偶像礼拝から、ご自分の民を勝ち取りたいと願っておられる。今は役に立たない飾りが占めているテーブルを、神のみ言葉、祝福された命の書が占めるようにしよう。現代の真理に関する、心を啓発する方法となる本を買うことに、あなたの金銭を使おう。……無限の知恵と愛の宝として主のみ言葉をしっかりとつかみなさい。このみ言葉は天への道を指し示す案内書である。……

ああ、あなたが信心深い心と神に明け渡す精神で聖書を探ると良いのだが。あなたが自分の心を、明かりを灯したローソクで探るように探り、心を神からそらせる世的習慣に自分を結びつけている細い糸を見つけて切るように。あなたの思いや愛情を神から引き離すあらゆる慣習を示してくださるようにと神に嘆願なさい。神は品性の基準として、人にご自分の聖なる律法を与えておられる。この律法によって、あなたは自分の品性のうちにあるあらゆる欠点を知り、これに勝利することができる。あなたは自分をあらゆる偶像から切り離し、恵みと真理という金の鎖で神のみ座に自分を結びつけることができる。(セレクトドメッセージ 2 巻 317, 318)

あなた自身の心を探れ

「あなたがたは、はたして信仰があるかどうか、自分を反省し、自分を吟味するがよい。それとも、イエス・キリストがあなたがたのうちにおられることを、悟らないのか。さもなければ、あなたがたは、にせものとして見捨てられる。」(コリント第二 13:5 英語訳)

罪の欺瞞性ほど人を裏切るものはない。人を欺き、盲目にし、破滅に至らせるものはこの世の神である。サタンは、誘惑を一度に並べたててやって来ることはない。彼は、誘惑をいつわって善に似させる。……だまされた魂が一步進むとき、次の一步をふみ出す用意ができている。……ああ、サタンは、自分のえさに魂がやすやすとかかり、自分が備えた道に魂が歩むのを見ようといかに見張っていることであろう。……

きびしく自己を吟味し、神のみことばに照らして、わたしの心は健全だろうか、腐敗していないだろうかと綿密に検討してみなければならない。わたしは、キリストのうちに新たにされているであろうか、それとも外面だけ新しい装いをつけながら、心はやはり肉欲的ではないだろうか。神の審判に備えて、身をひきしめ、神の光に照らして、かくれた罪や不義、捨てきれない偶像がないかを調べなさい。サタンの計画に欺かれることのないように、また無頓着で、不注意で、虚栄的な精神に陥ることのないように、……かつてなかったほど祈りなさい。

世の終りのしるしとなっている罪惡の一つは、自分はクリスチャンであると称しながら、神よりも快樂を愛することである。自分自身の魂を正直に扱い、注意深くしらべなさい。忠実にしらべた後、天を仰いで、「……わたしは、神よりも快樂を愛するような者ではない」と言い得る者が何人いるであろうか。あるいはまた、「わたしは世に対して死んでいる。……わたしの生命であるキリストが現われるとき、わたしもキリストと共に現われる」と言い得る者がどんなに少ないことであろう。

神の愛と恵み！ そのとうとい恵みは、精金よりも価値がある。それは他のどんな原則よりも、人の心を高め、とうといものとする。それは人の思いと愛情を天に定着させる。わたしたちのまわりの人々が、世俗的な虚栄と快樂と愚かなことにふけているときに、わたしたちの話題は待望の救い主が来られる天にある。魂は、ゆるしと平安、義と真の聖潔をもとめて神に手をさしのべている。神と語り、天の事物について瞑想するとき、魂はキリストのみ像に変化させられるのである。(青年への使命 73～75)

探る質問

「主の山に登るべき者はだれか。その聖所に立つべき者はだれか。手が清く、心のいさぎよい者、その魂がむなしい事に望みをかけない者、偽って誓わない者こそ、その人である。」(詩篇 24:3, 4)

キリストと一つに結ばれた魂は……すべての違反と、罪へ近づくあらゆる道に對して戦う。彼は日毎に、明るく輝く光のようになり、ますます勝利を得るようになる。彼は弱さから弱さへではなく、力から力へと進む。

だれもこのことに関して、自分の魂を欺いてはならない。もしあなたが、自尊心やうぬぼれ、最上位への愛着、虚栄心、汚れた野心、つぶやき、不満、うらみ、悪口、偽り、欺き、中傷などを心に抱いているなら、あなたの心にキリストは宿っておられないのである。……あなたは耐えるクリスチャン品性を持たなければならない。……

真理を信じていると主張する者の中に徹底的な改心がなければならない。さもないと彼らは試練の日に倒れてしまう。神の民は高い標準に到達しなければならない。彼らは聖なる国民、特別の民、選ばれた種族、すなわ良い働きに熱心な者でなければならない。キリストがあなたのために死なれたのは、あなたが世の人の持つ情欲や嗜好、また習慣を持つことができるためではない。……

自分の心を天国へ向けない限り、だれも栄光の門をくぐることはできない。だから次のような質問を自分にしてみなさい。あなたは世の事柄を気にかけているのであろうか。あなたの思いは純潔であらうか。天国の雰囲気を呼吸しているであらうか、あるいは汚れた毒気を帯びているであらうか。……純潔で、聖潔の美しさのうちに、熱心に自分を捧げて神に奉仕しているであらうか。自分が神の子であるかどうかを、心から自問しなさい。……

わたしたちは教会全体で徹底的な改革が必要である。神の改変する力が、教会の中に入り込まなければならない。……備えの日を延期してはならない。ともしびの器に油のない、準備のできていない状態で、まどろんではならない。……確信の持てない危険な状態のままでいてはならない。自分が救われた者の内にいるかどうかを熱心に自問しなさい。わたしはみ前に立つことができるか、否か問いなさい。手が清く、心のいさぎよい者だけがその日に立つことができる。(牧師への証 41～43)

一瞬一瞬真のクリスチャンであることは、すべての神の子の特権である。そのとき、全天が、彼の側に動員されているのである。(同上 40, 41)

あえて違った者であろうとするだろうか

「しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。」(ペテロ第一 2:9)

人の子がまもなく天の雲に乗ってこられるという警告は、多くの人にとって聞き慣れた話になっている。彼らは待ち、見張っている持ち場を離れてしまった。実生活にあらわされている、身勝手な、世的な精神が、「わたしの主人は帰りが遅い」という心の思いをあらわしている。……

ノアの時と同じように、自分本位の精神、世の慣習に一致する精神が現代にも存在する。神の子であると告白する者の多くが、世的な気晴らしを熱心に追い求め、自分の告白が偽りであることを証明している。彼らは自分に与えられた猶予期間の最後の一瞬まで、植え、建て、買い、売り、食い、飲み、めとり、とつぎなどしている。これがわたしたちの仲間の、大部分の状態である。……

わたしたちの間にある霊性の大きい欠乏を見るとき、わたしの魂は悩む。世の流行や慣習、自尊心、娯楽を愛し、見せびらかしを愛し、衣服や家や土地に浪費をするといったことは、世界へ向けて、真理の光を送り出すために用いられるべきである財産を、自分が満足するために使うことによって、神の資金を盗んでいることになる。……

光の子であり、昼の子である者は、不法を働く者たちを取り巻いている夜や闇の影を自分の回りに集めてはならない。反対に、光をもたらす者として、闇闇の中にいる者に注ぐために、神から光を集めなければならない。主はご自分の民が誠実さを保ち、不信心な慣習に触れないように、すなわちそのような慣習をまねないようにと要求しておられる。

クリスチャンはこの世で「聖なる国民、特別の民」であり、「暗やみから驚くべきみ光に」自分たちを招いて下さった方への賛美をはっきりと示すのである。この光は薄暗がりを増すのではなく、真昼になるまで、ますます明るく輝かなければならない。…… 長年の間、わたしたちの耳に鳴り響いてきた感動させる真理、すなわち「主は近い、あなた方も用意していなさい」というみ言葉は、わたしたちがこのメッセージを初めに聞いた時より、今日その真実性を減じてはいない。(教会への証 5 卷 9～14)

疑いという種を根こそぎ引き抜く

「だから、あなたがたは自分の持っている確信を放棄してはいけない。その確信には大きな報いが伴っているのである。神の御旨を行って約束のものを受けるため、あなたがたに必要なのは、忍耐である。……しかしわたしたちは、信仰を捨てて滅びる者ではなく、信仰に立って、いのちを得る者である。」(ヘブル 10:35～39)

わたしたちは今、ふるいの時にいるのをわたしは見た。サタンは魂をキリストの手から力づくで手に入れて、彼らに神の御子を足の下に踏みつけさせようと全力をつくして働いている。……

品性は発達しつつある。神の天使は道徳的な真価を測っている。神はご自分の民を試み、ためしておられる。次のみ言葉がわたしに天使から与えられた。「兄弟たちよ。気をつけなさい。あなたがたの中に、不信仰な悪い心をいだいて、生ける神から離れ去る者がないように。あなたがたの中に、罪の惑わしに陥って、心をかたくなにする者がないように『きょう』という日のうちに、日々互いに励まし合いなさい。もし最初の確信を、最後までしっかりと持ちつづけるならば、わたしたちはキリストにあずかる者となるのである。」〔筆者強調〕

神は、ご自分の恵みをすでに知っているご自分の民が、だれでも疑いを口にしておいて、他の人の心に自分の暗示を伝えて、自分をサタンのための通路となるのを喜ばれない。まかれた不信と悪の種は容易に引き抜けない。サタンはいつも疑いをつのらせるので、それは育ち、強くなる。まかれた良い種は、育て、水をやり、優しく世話をする必要がある。なぜなら、その成長を妨げ、枯らそうとあらゆる有害な影響があたりにまき散らされているからである。サタンは以前にも増して熱心に努力している。欺くための時間が短いことを知っているからである。……

麦がふるいにかけられるように、神の民は、もみがらがすべて、麦の純粋な穀粒からより分けられるまで、ふるいにかけられる。わたしたちは、キリストを模範として仰ぎ、謙遜の型を模倣すべきである。……

わたしは聖徒の報いである永遠の嗣業を示された。それから、神の民が真理のためにどれほど耐え忍び、しかも天国はなんと安いのだろうと思うかをわたしは見せられた。現在の苦しみは、自分のうちにあらわされる栄光に比べると、なにほどのこともないと彼らは考えた。この終わりの時代に住む神の民は試みられる。しかしまもなく最後の試練が訪れて、それから、永遠の命という賜物を受けるのである。(教会への証 1巻 429～432)

霊的巨人それとも小人

「愛する者たちよ。わたしたちは、このような約束を与えられているのだから、肉と霊とのいっさいの汚れから自分をきよめ、神をおそれて全く清くなろうではないか。」(コリント第二 7:1)

主がご自分の律法を守っていると公言する人々を戒め、正される。主は、すべての罪と悪を彼らから引き離したいと願っておられるので、彼らの罪を指摘し、その不正を明るみに出される。そうすれば、彼らをご自分を恐れることにより聖潔を完成し、主にあって死ぬか、もしくは天へ移される準備ができるからである。

.....

神は純潔と清潔以外は何ものもお受け入れにならない。品性における一つのしみも、しわも、また欠点といえども、栄光の宝をすべて備えた天国から彼らを永久に閉め出すのである。(教会への証 2 巻 453)

クリスチャンであると公言する者のほとんどが、この世のつまらない、永続しないものを手に入れる時にあらわすような大望をもって、熱心に神の知識を得ようと辛抱強くあるならば、得させるはずの霊的な力に気づいていない。クリスチャンであることを公言している多くの者が、霊的に小人であることに満足してしまっている。彼らには、まず神の国と神の義を求めることを自分の目標にするという気持ちがない。そのために信心というものが彼らにとっては隠された神秘であり、理解できない。彼らは経験に基づく知識としてキリストを知らない。(同上 26)

神を恐れつつ 聖潔を完成するという働きに、まじめに、思慮深く、また熱心に取り組むすべての者のために豊かな備えがなされている。力と恵みと栄光がキリストを通して備えられており、救いを受け継ぐべき人々に仕える天使が携えてくる。もし人が自分の罪を捨て去り、不正な行為を止めて、心に強い意志をもって、生ける神に立ち帰るなら、自分のために死んでくださったイエスのうちに、力と純潔と義を見出すことができないほど低く、墮落した、卑しい者はだれもないのである。主は彼らから、罪に汚れて、しみのついた衣を脱がせて、義の白い輝く礼服を着せようと待っておられる。だから主は彼らに死なないで生きよと命じられる。彼らは主にあって豊かに栄えることができる。その枝は、枯れることもなく、実を結ばないこともない。もし彼らが主のうちにとどまるなら、主から生氣と滋養を汲み出すことができ、聖霊を吹き込まれ、主が歩まれたように歩み、主が勝利されたように勝利し、主ご自身の右にまで引き上げられるのである。(同上 453, 454)

思慮深い者かそれとも思慮の浅い者か

「そこで天国は、十人のおとめがそれぞれあかりを手にして、花婿を迎えに出て行くのに似ている。その中の五人は思慮が浅く、五人は思慮深い者であった。」(マタイ 25:1, 2)

自分がキリストのみかたちに変えられたという証拠を示さず、古い習慣にしがみつき、世俗の考えや習慣という糸で自分の織物を織りながら、自分たちは教会員だから救われると考えて、安心してはならない。……

十人のおとめはこの地上歴史の黄昏時に見張っているのである。彼らは全員がクリスチャンであると主張する。全員が召しを受け、名とあかりを持ち、神の奉仕に携わっていると主張している。見たところ全員が主の来られるのを期待して待っているように見える。しかし、五人は足りていない。彼女たちは、婚宴の部屋の外で驚いて、うろたえるのである。(ビュー・アノド・ヘラルド 1899年10月31日)

わたしたちは思慮深いおとめか思慮の浅いおとめのどちらかに代表される。キリストの足元にとどまって、彼に従わない者が多くいる。彼らは主の道(方法)についての知識がなく、主の来臨の準備をしていない。彼らは主を待ち望んでいるふりをしているが、愛によって働き、魂を清める信仰をもって見張り、祈っていなかった。不注意な人生を送ってきたのである。彼らは真理を聞いて、同意したが、その真理を自分たちの実生活に持ち込んでこなかった。恵みの油が彼らのあかりに流れ込んでいないので、小羊の婚宴の部屋に入る用意ができていなかったのである。(同上)

キリストの命令には従おうとはしないで、神のみ約束は当然自分たちのものであると考えていた思慮の浅いおとめたちのようであってはならない。告白は何の意味もないとキリストはわたしたちに教えておられる。『だれでもわたしについてきたいと思うなら、自分を捨て、自分の十字架を負うて、わたしに従ってきなさい』と主は言われる。……

わたしたちが神のテストに耐え、精錬し、清める過程で、炉の火が不純物を焼き尽くし、清められた品性という純金が現れるとき、わたしたちは、パウロのように、『わたしがすでにそれを得たとか、すでに完全な者になっているとか言うのではなく、ただ…… 追い求めているのである。わたしは…… ただこの一事を努めている。すなわち、後のものを忘れ、前のものに向かってからだを伸ばしつつ、目標を目ざして走り、キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の賞与を得ようと務めているのである』となお言うことができるのである。(同上)

今、常に今

「だから、目をさましていなさい。その日その時が、あなたがたにはわからないからである。」(マタイ 25:13)

キリストの来臨は、いわば真夜中、すなわち全員が眠っている時である。日没前に自分の記録をすべてきちんと整理しておくことはすべての者にとって良いことである。彼の働きはすべて適切であり、自分と他の人との交際は正しいものでなければならない。あらゆる不正直や罪深い行為はやめてしまうべきである。恵みの油があかりと共にわたしたちの器に入っていなければならない。…… 本当に悲しいことであるが、人は信心深い様子をしながら、その力を否定している状態である。キリストを主、主と呼びながら、キリストのみ姿と銘を持っていないのである。……

神は恵み深くも猶予の期間、試みとテストの期間を与えてくださっている。神は、『あなたがたは主にお会いすることができるうちに主を尋ねよ。近くおられるうちに呼び求めよ』と招いておられる。……

あわれみの声が今日招いている。そしてイエスは愛の網で人々を引き寄せておられる。しかしイエスが報復の衣をまとうその日が近づいている。…… 世の悪が日毎に増しているの、ある限界にまで達すると記入が終わり、帳簿は清算される。もうこれ以上罪のために犠牲はない。主は来られる。あわれみは長い間、愛と忍耐と寛容の手を差し伸べてきた。『わたしの保護にたよって……』と招きが与えられている。しかし、人々は神のあわれみをいたずらに受け、その恵みを拒んだ。

主はなぜこれほどまでに来臨を遅らせておられるのであろうか。天の万軍はこの失われた世界のため、最後の働きを果たそうと待ってる。しかし、その働きは遅延している。なぜなら、あかりとともに自分の器に恵みの油を持っていると公言する者のうちほとんどの者が世に輝く者とならず、光を照らしていないからである。伝道者が少ないからである。……

毎週、一週間ずつ減っており、毎日一日ずつ判決がくだる日に近づいている。ああ、非常に多くの者には、発作的な宗教、すなわち、感覚に頼り、感情に支配されている宗教しかない。『最後まで耐え忍ぶ者は救われる。』その時、あなたは自分の心に恵みの油を持っているかどうかを知るようになる。この油を持っているということが審判の時にあなたの運命を決めるのである。(ビュー・アソド・ハラルド 1894年3月27日)

最後の期間

「だから、目をさましていなさい。いつ、家の主人が帰って来るのか、夕方か、夜中か、にわたりの鳴くころか、明け方か、わからないからである。あるいは急に帰ってきて、あなたがたの眠っているところを見つけるかも知れない。」(マルコ 13:35, 36)

一つの群れがわたしの前に示された。…… 彼らの目は天の方を向いており、その主人であられる方の『目をさましていなさい。わたしがあなたがたに言うこの言葉は、すべての人々に言うのである』という言葉が、彼らの唇にあった。……最終的に夜が明ける前に、主は遅延をお知らせになる。しかし彼らが弱り果てたり、熱心に見張るのを怠らないようにしてくださる。なぜなら、彼らが期待するほど早く朝にならないからである。……

地上の富を増すために世のわずらいに愛情と関心をひたすら向けながら、救い主が命じられたように、待ち望んでいる、見張りの立場にいるのは不可能であるのをわたしは見た。天使は、『彼らは一つの世界だけは手に入れることができる。天の宝を得るためには、地上のものは犠牲にしなければならない。両方の世界を手にすることはできない』と言った。……

過去において、多くの時が過ぎてしまったことをわたしは見た。このために警戒心が欠けて良いだろうか。決してそうではない。止むことのない警戒がもっと必要である。なぜなら、今は以前よりもっと、時が短くなっているからである。…… もしわたしたちがその時油断なく警戒していたのなら、二度目の見張りには倍以上の油断無さが必要である。二度目の見張りが過ぎると三度目の見張りが来た。そして今、わたしたちの警戒を減ずるなら弁解の余地がない。三番目の見張りは三倍の熱心さを要求される。今短気を起こすなら、これまでの熱心な辛抱強い見張りをすべて無駄にしてしまうのである。憂鬱な夜長は試練である。しかし朝は恵みのうちにやってくる。なぜなら、もし主が今来られたとしたら、非常に多くの者が準備のできていないのを見つけられるからである。神はご自分の民が減びるのを望まれないというのが、これほど長く来臨が遅れている理由である。……

世を愛する者とキリストを愛する者との相違は、間違えようのないほどはっきりしている。世人が地上の宝を守るために熱心に、また野心に燃えている間、神の民は世に従わず、熱心に、目を覚ましていることによって、自分に移される場所を待ち望んでいることを示す。彼らの家はこの世にはなく、より良い国、天国を求めていることを示すのである。(教会への証 2 巻 192 ～ 194)

唯一安全な道

「誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。」(マタイ 26:41)

神の残りの子らを目覚めさせるためにわたしは何と言おうか。…… わたしはキリストのみ名を口にする人々すべてに、自分自身をよく吟味し、自分の過ちをみな、完全に徹底的に告白するようにと警告する。そうすれば彼らは先に裁きに出ることができるからである。記録の天使はその名前に対して許しを書くことができる。兄弟姉妹方、もしこの尊い憐れみの時を正しく用いなければ、あなたは容赦なく置き去りにされてしまう。もし目覚めるために特別の努力をしないなら、悔い改めに熱心さを現さないなら、この黄金の時はすぐ過ぎ去ってしまう。そして、あなたは量りではかられて足りないことが分かるのである。(教会への証 1 巻 263)

「目を覚まして祈っていなさい」という警告の中で、イエスは唯一安全な道を指し示しておられる。注意深さが必要である。わたしたち自身の心は不正直であって、人間としての弱点やもろさに取り囲まれている。そしてサタンは滅ぼそうと熱中しているのである。わたしたちは自分たちの警戒を怠るかもしれない。しかしわたしたちの敵は決して怠け者ではない。彼の疲れを知らない油断の無さが分かるなら、わたしたちは、他の人たちのようには眠らないで、「目を覚まして祈」ろうではないか。世の精神と影響には会わなければならないが、それらが心や精神に入り込むのを許してはならない。(同上 5 巻 409)

永遠の光であな自身自身の心をよく探りなさい。吟味をするのに何事も隠してはならない。ああ、あなたの命のために探りなさい。そして自分を責め、自分に判決を下しなさい。そしてそれから信仰によって、あなたのクリスチャンとしての品性からしみを取り去っていただくために、キリストの清める血を願い求めなさい。自分を許したり、へつらったりしてはならない。自分の魂を事実の通りに取り扱いなさい。そうすれば、十字架の足元に倒れ、砕かれた罪人として自分を見るようになる。イエスはあなたをあるがまま、汚れたままで受け入れてくださる。そしてご自身の血であなを洗い、すべての汚れから清めて、あなたを純潔で調和のとれた天国にいる聖天使たちの社会にふさわしい者にしてくださる。そこには不和や争いはない。すべての者は健康で、幸福であり、喜んでいる。(同上 2 巻 81)

この世はより高度な学校のための訓練学校であり、この世の生活は来るべき世界の生活のための準備である。ここでわたしたちは天の宮廷にはいるための準備をするべきである。ここでわたしたちは光のうちにいる聖徒たちと共に住居に住むのに適した者となるまで、真理を受け入れ、信じ、実践すべきである。(同上 8 巻 20)

働く信仰

「万物の終りが近づいている。だから、心を確かにし、身を慎んで、努めて祈りなさい。」(ペテロ第一 4:7)

万物の終わりが近づいており、地上歴史の場面がすみやかに閉じようとしていることをあなたは信じるだろうか。もしそうであるなら、あなたの信仰をその行いで示しなさい。人は自分の持っている信仰をすべてあらわす。ある人々は自分にはかなり良い信仰があると考えてるが、そのように考えること自体、その信仰は死んだものである。行いによって支えられていないからである。「信仰……は行いを伴わなければ、それだけでは死んだものである。」ほとんどの者が、愛による働きと魂を清める真の信仰を持っていない。しかし、永遠の命を受ける価値があると見なされるすべての人はこの条件に合っていなければならない。「愛する者たちよ。わたしたちは今や神の子である。……彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからである。彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がきよくあられるように、自らをきよくする。」これがあなたの前におかれている働きである。……

あなたは自己に死ぬ経験をし、神に生きなければならない。「このように、あなたがたはキリストと共によみがえらされたのだから、上にあるものを求めなさい。そこではキリストが神の右に座しておられるのである。」自分自身に意見を求めるべきではない。自尊心や自己愛、わがまま、貪欲、むさぼり、世に対する愛、憎しみ、疑い、嫉妬、憶測などはすべて抑え、永久に捨てなければならない。キリストが現れる時に、これらの悪を正して、ご自分の来臨にふさわしい者にしてくださることはない。この準備は主が来られる前に、すべてなされなければならないのである。わたしたちは救われるために何をなすべきであろうかというのが、思いと研究と熱心な質問の主題でなければならない。自分が神に是認されたことを示すことのできる行いとはどのようなものであろうか。つぶやきや非難、不満をつのらせること、自分の周りにいる人々を傷つけること、そして自分自身の魂をも傷つける誘惑に会った時、わたしは神のみ座の前に傷なく立てるのであろうかと、心から深く、熱心に切なる問いをしなさい。品性におけるあらゆる欠点をまずなおし、あらゆるしみをキリストの清める血によって取り除いていただかなければならない。そうすれば品性の高潔でなく愛らしくない特徴はみな克服される。(教会への証 1 巻 704, 705)

サタンの代理人に気をつけよ

「しかし、御霊は明らかに告げて言う。後の時になると、ある人々は、惑わす霊と悪霊の教とに氣をとられて、信仰から離れ去るであろう。」(テモテ第一 4:1)

1844年のその時が過ぎた後、わたしたちはあらゆる種類の狂信に出会った。……過去の経験が繰り返される。将来サタンの迷信的行為は新しい外観を装う。誤りが魅力的な、喜ばれる方法で提供される。光の衣をまとった偽りの理論が神の民に示される。このようにしてサタンは、できることなら選民をも惑わそうとするのである。最高の誘惑する感化力が使われ、精神は催眠をかけられる。ノアの洪水前に存在したのと同じ、あらゆる種類の墮落が、精神をとりこにするために持ち込まれる。人間に確実な最後をもたらすために、サタンは、自然を神としてあがめること、人間の意志を抑制しないで放縱のままにさせること、未信者を自分の代理人とし、その勧告を用いさせるのである。彼は自分の計画を実行するために、人の心に感化を及ぼす力を使用する。何よりも悲しむべきことは、サタンの欺く感化力のもとで、人が神との真のまじわりを持たないで、信心の形だけを持つことである。善悪を知る木から実を取って食べたアダムとエバのように、多くの人は今でも自分たちを欺く過ちの実を食べ続けているのである。

エデンの園で、へびを通して語ることによって、サタンがわたしたちの最初の両親から自分の正体を隠したように、サタンの代理人は偽りの理論に魅力的な外観を装わせている。これらの代理人は、事実の中に致命的な誤りをまぜて、人の精神に徐々に教え込む。神の明らかなみ言葉から離れて、魅力的な作り話に頼る人々の上に、サタンの催眠をかける感化力が注がれる。

サタンがもっとも根気強くわなをかけようとする相手は、もっとも多くの光を持っている者である。もしも自分が彼らを欺くことができるなら、自分の支配のもとに、その人々は罪に義の衣をまわせて、多くの人を墮落させるということをサタンは知っているからである。

わたしはすべての方々に告げる。用心していなさい。サタンは光の天使のような姿をして、クリスチャンの働き人たちのどの集会の中にも、どの教会の中にも歩いており、教会員を自分の側に取り込もうと試みているのである。「まちがってはいけない。神は侮られるようなかたではない」と、神の民に警告を与えるよう、わたしは命じられている(ガラテヤ 6:7)。(教会への証 8 巻 292～294)

変装した誘惑

「わたしが去った後、狂暴なおおかみが、あなたがたの中にはいり込んできて、容赦なく群れを荒すようになることを、わたしは知っている。また、あなたがた自身の中からも、いろいろ曲ったことを言って、弟子たちを自分の方に、ひっぱり込もうとする者らが起るであろう。」(使徒行伝 20:29,30)

神はご自分の民を通り過ぎて、ご自分の真理を委ねるのにふさわしい唯一の人として、ここに一人、そこに一人だけ選ばれたりはなさらない。神は、体なる教会の確立された信仰とは逆の新しい光を、一人の人に与えられることはない。どの改革にも、この主張をする人々があらわれてきたのである。……

ある人が真理に矛盾しているようには思えない何か新しい、独創的な考えを受け入れる。彼は…… この考えが自分にとって長所と利点、また重要性を持っているように思えてくるまでこのことを思い続ける。サタンがこれに偽りの外観を与えるからである。そして、ついにこの考えにまったく夢中になってしまい、すべてのことをこれを中心にして考えてしまうと、真理は心から根こそぎに引き抜かれる。

あなたはこれらの枝葉末節の問題に用心するようにとわたしは警告する。このような傾向は心を真理から引き離すからである。誤りは必ず害を及ぼす。これは決して清めることはなく、常に混乱と意見の相違をもたらすのである。……

真理の光を持っている人々のために用意されている何千もの変装した誘惑がある。だからわたしたちの誰にとっても唯一の安全はまず経験ある兄弟に相談することなく、新しい教理や聖書の解釈を受け入れないことである。兄弟たちの前に、謙遜に熱心な祈りをもって、教えを受ける気持ちで、それを置きなさい。そしてもし彼らがその教理あるいは解釈に光を見出さないなら、彼らの判断に従いなさい。……

サタンは絶えず働いている。しかしほとんどの者はサタンの活動や巧妙さが分かっていない。神の民は悪賢い敵に逆らう用意をしていなければならない。サタンが恐れるのはこの抵抗である。サタンは自分の力の限界や、もしもわたしたちが彼に抵抗して、臆せず立ち向かうなら、どれほど簡単に打ち負かされてしまうかをわたしたち以上によく知っている。神の強さを通して、もっとも弱い聖徒はサタンと悪天使たち全員を合わせたよりも強い。だからもしも試練の場に引き出されたなら、彼は自分のよりすぐれた力を証明することができる。だからサタンの歩みは静かで、その働きはひそかであり、その砲列は隠されている。彼はクリスチャンの眠っている能力を目覚めさせて、祈りによって神のもとへ彼を行かせないように、あえて自分自身を公然と示さないのである。(教会への証 5 巻 291～294)

なぜキリストは来臨を遅らせておられるのか

「兄弟たちよ、わたしの言うことを聞いてほしい。時は縮まっている（定められた時は非常に短い）。」（コリント第一7：29）

神の天使たちは、人々に対するメッセージの中で、時が非常に短いと述べている。このようにして、このことは常にわたしに示されている。わたしたちがこの使命の初期に期待したよりも、時が延び続けているのは事実である。救い主はわたしたちが希望した程すぐには来られなかった。しかし主のみ言葉は、活力を失ったのであろうか。決してそのようなことはない。神のみ約束と警告はどちらも条件付であることを覚えるべきである。

神はご自分の民に、地上で成し遂げるべき働きを委ねてこられた。第三天使の使命が与えられて、キリストがご自分の民のためのあがないをするために入られた天の至聖所へ、信者の心は向けられるべきであった。安息日の改革が前進すべきであった。神の律法における違反は償われなければならない。この使命は大声で宣言されねばならない。それによって地上の全住民が警告を受けることができるからである。神の民は真理に従うことによって自分の魂を清め、主の来臨の時に、そのみ前に傷のない者として立つ用意をしなければならない。

1844年の大失望の後、アドベンチストたちが自分の信仰を堅く保ち、神の初めの摂理の中で一致して従い、第三天使の使命を受け入れて、聖霊の力により世界中にこの使命を宣べ伝えていれば……主は彼らの努力と共に力強く働かれ、その働きは完結して、キリストは、ご自分の民をその報いとして受け入れるためにまもなくこの地上に来られるはずであった。

しかし失望の後に続いた疑いと半信半疑の時代に、再臨を信じる者の多くが自分の信仰を曲げた。……このようにしてその働きは妨げられ、世界は暗闇の中に取り残された。……

40年間の不信仰、つぶやき、反抗が古代イスラエルをカナン之地から閉め出した。その同じ罪が今日のイスラエルが天のカナンへ入るのを遅らせている。どちらの場合も神のみ約束に誤りはなかった。わたしたちを罪にまみれたこの世につなぎ、長年の間悲しませているのは、主の民であると公言している人々の中にある不信と世を愛する心、献身のなさ、そして争いである。（*レクティッド・メッセージ* 1巻 67～69）

達するべき目標

「どうか、平和の神ご自身が、あなたがたを全くきよめて下さるように。また、あなたがたの霊と心とからだとを完全に守って、わたしたちの主イエス・キリストの来臨のときまで、責められるところのない者にして下さるように。」(テサロニケ第一 5:23 英語訳)

パウロが「どうか平和の神ご自身が、あなたがたを全くきよめて下さるように」と書いたとき、兄弟たちに、達するのが不可能な基準を目指すようにとは勧めなかった。与えることが神のみ旨ではない祝福を彼らが持つようにとは祈らなかった。キリストに平和のうちにお目にかかるにふさわしい者はみな、純潔で気高い品性を持っていなければならないことを彼は知っていた。(クリスチャンの節制と聖書の清潔 54)

もしセブンスデー・アドベンチストたちが、自分が信じていると公言していることを実行していたなら、またまことの健康改革者であったなら、世界に対し、天使と人々に対して本当に見世物となっていたであろう。そして彼らは、真理に無知な人々の救いのために、はるかに大きな熱心さを示していたであろうに。

キリストが間もなく来られるのを待ち望んでいると主張する人々の中にもっと大きな改革が見られるべきである。健康改革は、わたしたちの中で、なすべきであって、まだなされていない働きである。肉食の危険に目覚めるべき人々がいる。この人々はまだ動物の肉を食べており、このようにして身体的、精神的、霊的健康を危険にさらしている。肉食の問題に関して、今半分しか改心していない多くの者は神の民から離れこれ以上共に歩まなくなるであろう。(健康への勧告 575)

食欲が支配する力は何千もの人々の破滅の原因を明らかにする。もしも彼らがこの点について勝利をしていれば、サタンの他のどの誘惑にも勝利を得る道徳上の力を持ったはずだからである。しかし食欲の奴隷となっている者は、クリスチャンの品性を完成するのに失敗する。六千年間にわたる絶え間ない人間の違反が、その実として、病気、痛み、そして死をもたらした。そして、時が終わりに近づくにつれて、食欲の放縦に対するサタンの誘惑はますます力を増し、勝利するのがますます難しくなる。(同上 574)

神はわたしたちを一步一步、神のもとものご計画、すなわち人は地の自然の産物を生活の糧とすべきであることに導こうとしておられることを、わたしは何度も何度も示されている。主の来臨を待ち望んでいる人々の中で、肉食は、ゆくゆくは消えていくであろう。肉が彼らの食事の一部分となるのが止むであろう。わたしたちは永久に肉食を止めることを心にとどめ、このことに対してたゆまず働くよう努力しなければならない。(同上 450)

悪魔のわざをする時間はない

「このように、これらはみなくずれ落ちていくものであるから、神の日の到来を熱心に待ち望んでいるあなたがたは、極力、きよく信心深い行いをしていなければならない。」(ペテロ第二 3:11,12)

どのような雰囲気が自分の周りを取り巻いているかを、すべての人が知るといえるのはきわめて重要なことである。自分が義の敵と協力関係を結び、無意識のうちにその働きをしているのか、それともキリストのくびきを負うて、そのみ働きに携わっているのかを知ることは絶対に必要なことである。……

サタンは誰でも皆自分の協力者となって、兄弟のうちにあるその確信を弱める働きをし、真理を信じていると公言する人々の間に不和の種をまく者がいることを喜ぶ。キリストの方針に従って歩んだり、働いたりしないで、キリストの友であると言言する者を通して、サタンは自分の目的をもっとも首尾よく完遂させることができる。……

今は主の日に備える時である。わたしたちは不信を口にしたり、……悪魔のわざをする時間はない。すべての者が、うらみや嫉妬、不一致の種をまくことによって、他の人々の信仰を乱さないよう気をつけなさい。神はそれらの言葉を聞いておられ、「はい」とか「いいえ」という言葉によってではなく、その人の行動から生ずる実によってさばかれるからである。……

神の僕がその額に印を押されるまで、まだ四方の風は抑えられている。それから地上勢力が最後の大きな戦いのために自分たちの軍隊を整列させる。わたしたちは、わずかしかなかった自分の猶予の期間を、どれほど注意深く活用しなければならないことであろうか。どれほど熱心に自分を探るべきであろうか。……

必要なのは精神の訓練、心と思いの清めである。これは立派なタラントの機転、あるいは知識よりもはるかに価値のあるものである。「主はこう仰せられる」というみ言葉に従って、訓練を受けた普通の頭脳は、能力を持つてはいるが、それらを正しく用いない者よりも、神のみ働きにとつて、より適任者である。……人は世的なことがらに対する自分の知識を誇るかもしれないが、もしも真の神に関する知識、道であり真理であり命であられるキリストに関する知識を知らないなら、嘆かわしいことに無知なのであつて、その知識は彼らと共に滅びる。この世の知識には力がある。しかし人間の心を変え、感化力を持つ御言の知識は滅びることがないのである。(レビュー・アンド・ヘルド 1900年11月27日)

サタンの最後の戦い

「子供たちよ。今は終りの時である。あなたがたがかねて反キリストが来ると聞いていたように、今や多くの反キリストが現れてきた。それによって今が終りの時であることを知る。」(ヨハネ第一 2:18)

敵は教会に対して最後の戦いの準備をしている。サタンは上手に自分を現さないよう隠してきたので、多くの人が彼の存在を信じるのがむずかしく、又、その驚くべき活動と力とを確信することはなお難しい。……

人はサタンの捕虜であって、自然にその暗示に従い、その命令を行う傾向がある。人には悪に対して適切な抵抗をする力が備わっていない。生きた信仰によって、キリストが彼の内に共にいて下さる時だけ、……人は本当に恐ろしい敵にあえて立ち向かうことができるのである。他のどの防備の方法も、まったくむだである。キリストを通してだけ、サタンの力は制限される。これはすべての者が理解しなければならない重要な真理である。サタンは毎瞬間、地上を行きめぐり、滅ぼすことのできるものを求めて、忙しく歩き回っている。しかし信仰による熱心な祈りは、その最大の努力をくじく。……

地上に間もなく訪れる全面的な滅びの中に神の残りの民を巻き込むことがサタンの希望である。キリストの来臨が近づくとき、彼は人々を倒すためにますます努力をしようと断固たる決心をする。自分の性向が、いにしえの道しるべに確固とした信仰を置いていない男女は、何か新しい光や新しい啓示を受けたと公言して立ち上がる。彼らの教理は神のみ言葉のテストを受けていないが、それでも魂は欺かれる。偽りの報告が広まり何人かはこのわなに捕えられる。……わたしたちはどのような形の誤りに対しても見張りすぎることではない。なぜならサタンは絶えず人々を真理から引き離そうと努めているからである。……

ある人々は品性に堅固さが無い。彼らは変形自由なボールのような者であり、考えられるどのような形にも押し固まることできる。……このような弱さや優柔不断、また無能力には勝利しなければならない。真のクリスチャン品性には、逆境に左右されたり、屈したりしない不屈の強さがある。人は道徳上の気骨、すなわち、おだてられたり、買収されたり、おびやかされたりしない高潔さを持っていなければならない。……

神はサタンが動かすことのできない境界線を定めておられる。わたしたちのもっとも気高い信仰がこの防壁である。だから、もしわたしたちがこの信仰のうちに自分を築き上げるなら、力強いお方の保護のもとに安全でいられる。(教会への証 5 巻 292 ～ 297)

天国の門を通して

「信仰によって、エノクは死を見ないように天に移された。神がお移しになったので、彼は見えなくなった。彼が移される前に、神に喜ばれた者と、あかしされていたからである。」(ヘブル 11:5)

わたしたちは悪の時代に生きている。…… なぜなら不法が満ちており、多くの人々の愛が冷えてきているからである。エノクは神と共に 300 年間歩んだ。今は義を求める動機として、時の短いことが力説されているように思える。わたしたちは正しい行動を強いるために、神の日に対する恐怖をわたしたちの前に置く必要があるだろうか。エノクの実例がわたしたちの前にある。何百年間も彼は神と共に歩んだ。彼は墮落した時代に生きていた。道徳上の汚染が彼の周囲を取り巻いていた。けれども彼は自分の心を献身へ、また純潔を愛するように訓練した。彼の会話は天のことがらについてであった。自分の心がこの通路を通るように教育したので、彼は天国の印象を身につけていた。……

エノクはわたしたちと同じように誘惑に会った。わたしたちを取り巻いている社会以上に、義に対して好意的な社会に彼が囲まれていたわけではなかった。彼が呼吸していた空気は、現代と同様、罪と墮落で汚れていた。けれども彼は聖潔な人生を送った。彼が生きていた時代の、広く行き渡っている罪に汚れてはいなかった。そのようにわたしたちも純潔で、腐敗しないことができるようにと祈る。彼は終わりの時代の危機と墮落のただ中で生きる聖徒たちの代表者であった。そして彼のように生きて、忠実であり続ける者もまた移されるのである。(教会への証 2 巻 121,122)

「心の清い人たちは、さいわいである、彼らは神を見るであろう。」300 年間エノクは心の純潔を求め続けていたので、天国と調和するようになった。300 年間彼は神と共に歩んだ。日毎に、彼はより密接な結びつきを切望した。神が彼をご自身のものとされるまで、この交わりはますます親しくなっていた。彼は永遠の世界の門口に立っており、彼と祝福された地との間は、一歩しか空いていなかった。そして今や天は開かれた。彼は長い間地上で神と共に歩んできて、そのまま聖なる都の門を通して行った。そして彼は生きたままそこに入った最初の人となった。……

このような交わりを持つようにと、神はわたしたちに呼びかけておられる。エノクのように、主の再臨の時に、生きて贖われる人々はその品性が聖潔でなければならない。(同上 8 巻 31)

この幻は確か

「この幻はなお定められたときを待ち、終りをさして急いでいる。それは偽りではない。もしおそれれば待つておれ。それは必ず臨む。滞りはしない。」(ハバクク 2:3)

あの大きな試練の時代に、ハバククおよびすべての聖徒たちとすべての義人たちを力づけた信仰は、今日神の民を支えるのと同じ信仰であった。クリスチャン信者は、最も暗黒で最も陰悪な状態のもとにあつて、すべての光と力の源に寄り頼んでいることができる。日ごとに神を信じる信仰によって、希望と勇気を新たにすることができる。…… 神の奉仕においては、落胆も動揺も恐怖も必要である。主はご自分に信頼する者のどんな大きな期待にもまさることをなしとげてくださる。主は彼らに必要な様々の知恵をお与えになるのである。

使徒パウロは試練のうちにあるすべての魂に豊かな助けが与えられることについて、雄弁にあかしている。彼に、「わたしの恵みはあなたに対して十分である。わたしの力は弱いところに完全にあらわれる」という確証が与えられた。試練の中にある神のしもべパウロは、感謝と確信をもって答えた。「それだから、キリストの力がわたしに宿るように、むしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう。だから、わたしはキリストのためならば、弱さと侮辱と、危機と、迫害と、行き詰まりとに甘んじよう。なぜなら、わたしが弱い時にこそ、わたしは強いからである」(コリント第二 12:9,10)。

われわれは預言者たちや使徒たちが試した信仰を抱いて、それを強めるようにしなければならない。それは神の約束をしっかりと把握して、神がお定めになった時と方法によって救いをお与えになるのを待つ信仰である。預言の確かな言葉は、われわれの主、救い主イエス・キリストが、王の王、主の主として栄光のうちに再臨なさるときに、完全に成就するのである。待望の期間は長く思われるかも知れない。心は失望の状況下に圧倒されるかも知れない。また、信頼されていた多くの人々が、途中で倒れてしまうかも知れない。しかしわれわれは、未曾有の背信の時代にあって、ユダを励まそうと努力した預言者と共に次のように言おう。「主はその聖なる宮にいます、全地はそのみ前に沈黙せよ」。

「この幻はなお定められたときを待ち、終りをさして急いでいる。それは偽りではない。もしおそれれば待つておれ。それは必ず臨む。滞りはしない。…… しかし義人はその信仰によって生きる」という励ましの言葉を常に覚えていよう(同 2:3,4)。(国と指導者下巻 6, 7)

安全な避難所

「見よ、主はそのおられる所を出て、地に住む者の不義を罰せられる。地はその上に流された血をあらわして、殺された者を、もはやおおうことがない。」(イザヤ 26:21)

罪悪が頑強に増加し続けるので、都市の住民は、急速にしかも確実に、全世界的ともいうべき罪に陥りつつある。一般の腐敗状態は、描写することができないほどはなはだしい。毎日、争闘、贈賄、詐欺などが新しく暴露されている。毎日、暴力、不法、人間の苦難に対する無関心、また、残忍きわまる悪魔的生命の殺害が、いまわしい記録をとどめている。……

われわれの神は、あわれみの神である。神は、神の律法を犯した罪人たちを忍耐深く、あわれみをもって扱われる。…… 主は、人々や町々を長く忍んで、神の怒りから彼らを救うために、彼らをあわれんで警告を発せられる。しかし、あわれみを請い求める声がついにやみ、真理の光を拒否し続けた人々は、消し去られる。……

今日の社会に行きわたっている状態、特に、諸国の大都会における状態は、神のさばきの時がきて、万物の終わりが近いことを、雷のような音で、宣言している。われわれは、どのような時代にもなかったような危機の門口に立っている。火事、洪水、地震、戦争、流血などの神の刑罰は、続々とくだっている。……

神の怒りの嵐が迫っている。ヨナが宣教した時のニネベの住民のように、あわれみの招待を受け入れて、支配者であられる神の律法に従って、清められる者だけが、それに耐えることができる。滅びが過ぎ去るまで、キリストと共に神のうちに隠されるのは、義人だけである。われわれは、次のように歌おう。

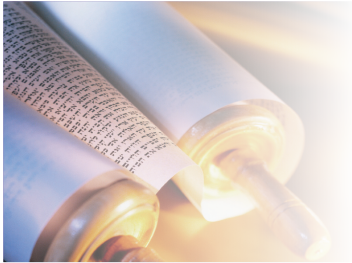
「わがたましいを愛するイエスよ、波はさかまき風ふきあれて、沈むばかりのこの身を守り、天のみなとにみちびきたまえ。

われには外の隠れ家あらず、頼るかたなきこのたましいを、委ねまつれば、みいつくしみのつばさの蔭に守らせたまえ。(讃美歌 273 番)

(国と指導者上巻 242-246)

研究 20

三重のメッセージ



第三天使のメッセージ

Part 7

悩みの時

「その時あなたの民を守っている大いなる君ミカエルが立ちあがります。また国が始まってから、その時にいたるまで、かつてなかったほどの悩みの時があるでしょう。しかし、その時あなたの民は救われます。すなわちあの書に名をしるされた者は皆救われます」(ダニエル 12:1)。「悲しいかな、その日は大いなる日であって、それに比べるべき日はない。それはヤコブの悩みの時である。しかし彼はそれから救い出される」(エレミヤ 30:7)。「どうぞ、わたしを陰府にかくし、あなたの怒りのやむまで、潜ませ、わたしのために時を定めて、わたしを覚えてください」(ヨブ 14:13)。「わたしは聞いて、わたしのからだはわななき、わたしのくちびるはその声を聞いて震える。腐れはわたしの骨に入り、わたしの歩みは、わたしの下によるめく。わたしが悩みの日に休みを得ることができるよう。このとき、彼は民に臨み、彼らをその軍隊をもって侵す」(ハバクク 3:16 英語訳)。

ヤコブの悩みとは、使者たちが彼のところに戻り、次のように言った時のことです。「わたしたちはあなたの兄エサウのもとへ行きました。彼もまたあなたを迎えようと四百人を率いてきます」。そこでヤコブは大いに恐れ、苦しんだ(創世記 32:6, 7)。真の聖徒たちは、黙示録 13:11 ~ 18 が成就するときに、似たような状況に陥ることになります。聖徒たちが殺されることはありません。なぜなら、そうでなければ不死の体に変えられるまで残る者はだれ一人としてないからです。しかしこの預言が成就するためには、聖徒たちを殺せという条令が発せられなければなりません。それが恐れと苦しみを生じさせます。ヤコブが悩んだときに、彼は「夜明けまで」御使と格闘しました(創世記 32:24)。獣の像との

最後の決戦において、獣の像を拝まない者をだれでも「殺」せとの条令が発せられるとき、聖徒たちは日夜叫び求め、神のみ声によって救出されるのです（ルカ 18:7）。

「彼らは大きな患難をとってきた人たちであって」（黙示録 7:14）、彼らは国が始まってからかつてなかったほどの悩みの時を通過してきた人たちです。そしてダニエル 12:1、2 によれば、この悩みの時に部分復活が起こり、印された安息日遵守者をよみがえらせるのです。

「しかし、一とこだけ栄光の輝く晴れ渡ったところがあって、そこから神のみ声が、流れの音のように、天地をふるわせて聞こえてきた。大地震が起こった。墓が開かれた。そして、第三天使のメッセージを信じ、安息日を守って死んだ人々が、栄化された姿で土の寝床から現れた。彼らは、神がご自身の律法を守った人々と結びたもう平和の契約を聞くのであった」（初代文集 460）。

何が聖徒たちにヤコブの悩みの時を引き起こすのでしょうか。「これらの災いは、悪人たちに、義人たちに対する激しい怒りを抱かせた。彼らは、われわれが彼らの上に神の刑罰をもたらしたのであって、われわれを地上から除けば災いがやむと考えた。聖徒たちを殺す布告が発せられた。そのために聖徒たちは、昼も夜も救いを叫び求めた。これがヤコブの悩みの時であった。そのとき聖徒たちは、みな心を悩まして叫び求め、神のみ声によって救い出された」（初代文集 97）。

「わたしはまた、聖徒たちがその特殊な信仰を捨て、安息日をやめて、週の初めの日を守らなければ、一定期間の後には、だれでも彼らを自由に殺してもよいという命令が書かれ、その写しが各地にばらまかれるのを見た。……サタンはいと高き神の聖徒たちを滅ぼす特権を得たいと望んだが、イエスが天使たちに命じて彼らを見守らせられた。神は、まわりの異教徒が見ている前で、神の律法を守った人々と契約を結ぶことによって、あがめられるのであった。またイエスは、長い間イエスを待ち望んでいた忠実な人々を、死を経験させないで天国へ移すことによって、栄えをうけられるのであった」（初代文集 456, 457）。

「異教徒たちが見ている前で」律法を守るとは、彼らを死にいたらせよという命令、しかも通常感覚でも穏やかな状況下でもない死にいたらせよという命令を持っている尋問者たちの見ている前でということです。

「死を経験させないで天国へ移す」という上記の記述から、144,000 人に入る人々はだれ一人として、キリストの実際の再臨まで生きている人しか入らないという主張がなされてきました。わたしたちは 144,000 人が救われる死とは、「各

地にばらまかれ」た「写し」によって認可された死であることを理解します。よみがえらされた安息日遵守者も、契約された者に含まれていることを心に留めましょう。ですから、彼らはキリストが来られるときに、脅された死を経験することなく、天に移されることになるのです。この命令によって、彼らは「ヤコブの悩みの時」に入ることになります。彼の悩みとは、エサウが武装した 400 人を引き連れてやってくるという知らせでした。主が彼を助けてくださらなければ、それは彼とその全家族にとって死であるかのように見えたのです。

メッセージのうちに死んだことがある人々はだれも 144,000 人のうちには入らないと主張する人々によって用いられる証がもう一つあります。

「彼らは、ヤコブの悩みの時の苦しみに耐えた。彼らは、神の最後の刑罰がくだる中を、仲保者なしで立った。しかし彼らは、「その衣を小羊の血で洗い、それを白くした」ために、救われた。……彼らは、地上が飢饉と疫病で荒廃し、太陽が激しい熱で人々を焼くのを目撃した。そして、彼ら自身も、苦しみ、飢えかわいたのであった」(各時代の斗争闘下巻 431)。

これは 144,000 人全体について言われていることであり、また部分的によみがえらされた安息日遵守者たちについてもそのとおりです。なぜなら、彼らはヤコブの悩みに耐えるからです。彼らはなおも死刑令に脅かされているのであり、彼らこそこの死刑条令から救出されなければならない者たちだからです。

「天にのぼるという聖徒たちの考えをあざけっていた人々は、神がご自身の民を守られ、彼らが輝かしい救いを受けるのを、目で見るのである」(初代文集 459)。

初代文集の 461 ページから、わたしたちは神のみ声が平和の契約を宣言なさった後、よみがえって生きている安息日遵守者たち、また生きている安息日遵守者たちに対して悪人たちが怒りを発しているときに、これらの安息日遵守者たちにさらに何が起こるかを読むことができます。「まもなく、人の子の乗っておられる大きな白い雲が現れた。その雲は、空の遠くに現れたときには初め小さく見えた。天使は、それが人の子のしるしだと告げた。……ちよつと前までは、神の忠実な子らを地上から滅ぼそうとしていた人々は、神の子たちの上におかれた栄光をまのあたりに見た。そして、あらゆる恐怖のさなかに、彼らは、聖徒たちがよろこびの調べにあわせて、「見よ、これはわれわれの神である。わたしたちは彼を待ち望んだ。彼はわたしたちを救われる」と叫ぶ声をきいた。

神のみ子の声が、眠っている聖徒たちを呼び起こすと、地は激しく揺れた。彼らはその呼び声に応じて、輝かしい不死を身にまとい、「死は勝利にのまれてしま

った。死よ、おまえの勝利は、どこにあるのか。死よ、おまえのとげは、どこにあるのか」と叫びながら現れた。それから、生ける聖徒たちと、よみがえった聖徒たちが声をあわせ、無我夢中になって高らかに勝利の叫びをあげた。病氣と死のしるしを負って墓にくだっていた人々は、不死と健康と活力をもって現れた。生ける聖徒たちは、またたく間に換えられ、よみがえった聖徒たちと一緒に、空中において主に会った。なんというすばらしい再会であろう」(初代文集 461～463)。

恩恵期間の終わるとき

「主の大いなる日は近い、近づいて、すみやかに来る。主の日の声は耳にいたい。そこに、勇士もいたく叫ぶ。その日は怒りの日、なやみと苦しみの日、荒れ、また滅びる日、暗く、薄暗い日、雲と黒雲の日」(ゼパニヤ 1:14, 15)。

「イエスが聖所を去られると、暗黒が地の住民をおおう。その恐ろしい時に、義人は仲保者なしに聖なる神のみ前に生きなければならない。悪人の上に置かれていた抑制が取り除かれ、サタンは最後まで悔い改めない者を完全に支配する。神の忍耐は終わった。世は神のあわれみを拒み、その愛をさげすみ、その律法をふみにじってきた。悪人は恩恵期間の限界を越えた。頑強に拒まれてきた神のみ霊は、ついに取り去られた。彼らは神の恵みの守りを失って、悪魔に対する防備が全くない。その時サタンは、地の住民を大いなる最後の悩みに投げ入れる。神の天使たちが人間の激情の激しい風を抑えるのをやめると、争いの諸要素がことごとく解き放たれる。全世界は、昔のエルサレムを襲ったものよりもっと恐ろしい破滅に巻き込まれる」(各時代の争闘下巻 386)。

「主なる神は言われる、「見よ、わたしがききんをこの国に送る日が来る、それはパンのききんではない、水にかわくでもない、主の言葉を聞くことのききんである。彼らは海から海へさまよい歩き、主の言葉を求めて、こなたかなたへはせまわる、しかしこれを得ないであろう」(アモス 8:11, 12)。

「神のみことばを尊んでいなかった人々が、海から海へ、北から東へとさすらいながら、神のみことばを求めて、あちらこちらへと急いでいた。天使は言った。「あの人たちは、神のみことばを見つけることができない。地にはききんがある。それは、食物に飢え、水にかわくききんではなくて、神のみことばを聞くことのできないききんである。彼らは、神からただ一言のおほめのことばをいただくことさえできるなら、何ものも惜しまないだろう。しかし彼らは飢え渴きつづけねばならない。彼らは来る日も来る日も救いを軽んじ、天の宝や勧めよりも、この世の富やこの

世の快樂を大事にしていた。彼らはイエスをこばみ、彼の聖徒たちをあざけった。けがれたものはいつまでも、けがれたままなのだ」と。」(初代文集 454, 455)。

尊い約束

「その時あなたの民は救われます。すなわちあの書に名をしるされた者は皆救われます」(ダニエル 12:1)。

「この悩みのときが訪れるとき、すべての判決は決定されている。もはや恩恵期間もなく、また悔い改めない者のための憐れみもない。生ける神の印は、神の民に押されている。この小さい残りの民は、龍の軍勢によって先導された地上の権力との死闘において、自らを防衛することができず、神を自分たちの防御とするのである。迫害や死の刑罰下で、獣を拝み、その刻印を受けるようにとの命令がすでに地上の最高当局によって出されている。神が今ご自分の民を助けてくださるように! なぜなら、そのときそのような恐ろしい戦いにおいてこのお方の援助なしに、いったい何ができるであろうか」(教会への証 5 巻 212)。

「このような人は高い所に住み、堅い岩はそのとりでとなり、そのパンは与えられ、その水は絶えることがない」(イザヤ 33:16)。

「悩みの時はわたしたちの目前にあり、そのときにはきびしい困窮によって、神の民は自己を否定し、ただ命を支えるのに必要な分だけを食さざるを得なくなる。しかし神はそのときのためにわたしたちを備えてくださる。その恐るべき時に、わたしたちの困窮は神の好機となり、ご自分の強める力を与え、その民を支えてくださるのである」(教会への証 1 巻 206)。

「神の民は苦難を免れるわけではない。彼らは迫害と苦しみに会い、窮乏に耐え、食物の不足に苦しむのであるが、滅びるままにほうっておかれたりはしない。エリヤを養われた神は、ご自分の献身的な子供たちをひとりも見捨てられない。彼らの頭の毛までも数えられるおかたが、彼らを保護し、ききんの時にあって満ち足らせられる。悪人たちが飢えと疫病のために死んでいくときに、天使は義人を守り、その必要を満たすのである」(各時代の斗争闘下巻 404, 405)。

「神はわれらの避け所また力である。悩める時のいと近き助けである。このゆえに、たとい地は変り、山は海の真中に移るとも、われらは恐れない。たといその水は鳴りとどろき、あわだつとも、そのさわぎによって山は震え動くとも、われらは恐れない。……万軍の主はわれらと共におられる、ヤコブの神はわれらの避け所である」(詩篇 46:1～3, 7)。

「人間の目から見ると、神の民は、むかしの殉教者たちのように、まもなくその血をもってあかしに印を押さなければならないように思われる。彼ら自身、主が彼らを離れて、彼らを敵の手に渡されたのではないかと恐れ始める。それは、恐ろしい苦悩の時である。彼らは、昼も夜も神に救いを叫び求める。……もし人々の目が開かれて、天の幻を見ることができたならば、力強い天使の一団が、キリストの忍耐の言葉を守る者たちの回りに駐屯しているのを見るであろう」(各時代の大争闘下巻 406)。

「ヤコブの生涯はまた、欺かれ、試みられ、罪に陥れられても、真に悔い改めて神に立ちかえった者を、神は見捨てられないという保証でもある。サタンはこのような人々を滅ぼそうとするが、神は天使を遣わして、危機の時に彼らを慰め、保護されるのである。サタンの攻撃は、激しく、断固たるもので、彼の欺瞞は恐るべきものである。しかし、主の目はご自分の民に向けられ、その耳は彼らの叫びを聞かれる。彼らの苦悩は大きく、炉の火は彼らを焼き尽くすように思われる。しかし、金を吹き分ける者であられる神は、彼らを火で練った金として取り出される。この最も激しい試練の時における、神のその子供たちに対する愛は、彼らの最も輝かしい繁栄の時と同じように、強く、やさしいのである。しかし、彼らは、火の炉に投げ入れられる必要がある。キリストの姿が完全に反映されるように、彼らの世俗的なところが焼きつくされねばならない」(各時代の争闘下巻 394, 395)。

避け所がない

「ああ、わたしは、なんと多くの人々が、悩みの時に、避け所がないのを見たことだろう。彼らは必要な準備を怠った。だから、彼らは、聖なる神の前に生きるのに適したものと彼らをするためにすべての者が持たなければならない慰めを、受けることができなかった。預言者に切り刻まれることを拒み、すべての真理に従って、魂を清めることをしない者、そして、自分たちは、実際よりは、はるかによい状態にあると思いついて人々は、災害がくだるときになって、自分たちが建物に合わせて切り刻まれ、四角にされなければならないことを悟るのである。しかし、その時には、そうする時間もなく、天の父の前で彼らの執り成しをしてくださる仲保者もおられない」(初代文集 149)。

「恩恵期間の終わりに関係のあるできごとと、悩みの時のために備える働きとが、はっきり示されている。しかし多くの人々は、全然啓示を受けなかったかのように、これらの重要な真理を理解していない。サタンは、彼らに救いに至る知

恵を与えるような感化をことごとく奪い去ろうとうかがっているのです、彼らは悩みの時に備えができていない」(各時代の大争闘下巻 359, 360)。

「悩みの時は、神の民にとって恐ろしい試練である。しかしそれは、すべての忠実な信者にとって、上を見上げ、主をとりまく約束のにじを信仰によって見る時である」(各時代の大争闘下巻 410)。

「わたしたちはまさに悩みの時の寸前におり、ほとんど夢にも思わなかったような困惑がわたしたちの目前にせまっている」(教会への証 9 巻 43)。

わたしたちの準備

「もしヤコブが、欺瞞によって長子の特権を得た罪をあらかじめ悔い改めていなかったならば、神は、彼の祈りを聞き、あわれみ深く彼の生命を保つことを、なさらなかったであろう。そのように、悩みの時においても、神の民は、恐怖と苦悩にさいなまれているとき、まだ告白していない罪を思い出すならば、彼らは圧倒されてしまうことであろう。絶望が彼らの信仰を断ち切り、彼らは神に救いを求める確信が持てなくなることであろう。しかし、彼らは、自分たちが無価値なことを深く感じてはいるが、告白すべき罪を隠してはいない。彼らの罪は、前もってさばかれて、消し去られている。彼らは、罪を思い出すことができない」(各時代の争闘下巻 393)。

『『かつてなかったほどの悩みの時』が、まもなくわれわれの前に展開する。それだからわれわれには、一つの経験—今われわれが持つておらず、また多くの者が怠けて持とうとしない経験—が必要なのである。現実の困難というもの、予想したほどではないということがしばしばある。しかし、われわれの前にある危機の場合は、そうではない。……

今、われわれの大祭司がわれわれのために贖いをしておられる間に、われわれは、キリストにあつて完全になることを求めなければならない。救い主は、その思いにおいてさえ、誘惑の力に屈服されなかった。サタンは、人々の心の中に、なんらかの足場を見つける。心の中に罪の欲望があると、サタンはそれを用いて誘惑の力を表わす。しかし、キリストはご自身について、『この世の君が来る……。だが、彼はわたしに対して、なんの力もない』と宣言された(ヨハネ 14:30)。サタンは、神の子の中に、彼に勝利を得させるなんのすきも見つかることができなかった。神のみ子は、天父の戒めを守られた。そして、サタンが自分に有利に活用することのできる罪が、彼の中にはなかった。これが、悩みの時を

耐えぬく人々のうちになければならない状態なのである。

われわれが、キリストの贖罪の血を信じることによって、罪を捨て去らなければならないのは、現世においてである。われわれの尊い救い主は、われわれが彼と結合して、われわれの弱さを彼の力に、われわれの無知を彼の知恵に、われわれの無価値さを彼の功績に結びつけるよう招いておられる。神の摂理は、われわれがイエスの柔和と謙遜を学ぶ学校である。主はわれわれの前に、われわれが選ぶ安易で楽しく思われる道ではなくて、人生の真の目的を、常に置かれる。われわれの品性を天の型に形造るために神が用いられる手段に、われわれは協力しなければならない。このことを怠ったり、遅らせたりする者は、必ず魂を最も恐ろしい危険にさらすことになるのである」(各時代の大争闘下巻 396 ～ 398)。

救出される神の民

「最後に神の残りの民に対して出される布告は、ユダヤ人に対してアハシュエロス(クセルクセス)が発したものと非常によく似ている。今日、真の教会の敵は、安息日の戒めを守る小さな群れを、門に座しているモルデカイのように思っている。神の民が神の律法を敬うことは、主を恐れることを放棄して神の安息日をふみにじっている者に対して、間断なき譴責である」(国と指導者下巻 209)。

「人間の法律による保護が、神の律法を尊ぶ者たちから取り去られると、彼らを滅ぼそうとする運動が、あちこちの国で、いつせいに起こる。法令に定められた時が近づくにつれて、人々は、この憎い教派を根こそぎにしようとたくらむ。一夜のうちに決定的な打撃を与えて、異議と非難の声を、全く沈黙させようということが決定される。

神の民は、独房の中にいる者たちもあれば、森林や山々の寂しい隠れ家にいる者たちもあるが、なおも神の保護を求めて祈っている。一方、いたるところで、武装した集団が悪天使の軍勢にかりたてられて殺害の準備をしている。絶体絶命の今こそ、イスラエルの神が、ご自分の選民を救うために手を下されるのである」(各時代の大争闘下巻 412)。

「悪人たちは驚いてその光景を見上げたが、聖徒たちはそれを自分たちの救出のしるしとして、厳粛なよろこびをもって見守った」(初代文集 460)。

かって？彼は自分が当然バツを受けるべきことを知っていたからです。

とりなし。なんと大きな言葉でしょう！それは何を意味しているのでしょうか？それはだれかほかの人の益ために、お願いすること、すなわち嘆願することを意味しています。

ジョニーは、自分のバツをのがれることができるように自分を助けてとりなしてくれる人がいたらいいのにと思いました。もしあなたが彼の立場だったら、同じように思いませんか？

みなさんは、何か悪いことをして、問題にまきこまれることを恐れたことはありませんか？その悪い行為のために、自分が受けるはずのバツを避けるために助けてくれる人がいたらいいのと思いませんか？

聖書には、「すべての人は罪を犯したため、神の栄光を受けられなくなっており」、そして「罪の支払う報酬は死である。しかし神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスにおける永遠のいのちである」と書いてあります(ローマ 3:23; 6:23)。

もしわたしたちが何か悪いことをしたとみとめるなら、イエス・キリストはよろこんでわたしたちを許してくださいます。このお方はわたしたちに、まっさらな新しいスタートを与えることがおできになります。そしてたった今も、このお方は天でご自分のとりなしを願っているすべての人のために、嘆願しておられるのです。

イエス様は、途中までだけ救ってくださるものではありません。実際、「そこでまた、彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである」(ヘブル 7:25)。

なんとすばらしい救い主でしょう！このお方は、これを終日わたしたちのためにしようと望んでおられます。

ただちにこのお方の助けを求めようではありませんか。

白菜のナムル

〔材料〕

白菜	大 1 / 2 個
にんにく	1 片
しょうが	少々
ねぎ	1 本
はちみつ	大さじ 1
塩	大さじ 1 / 2
ごま油	大さじ 1
レモン	大さじ 1
ごま	大さじ 1
しょう油	大さじ 1

〔作り方〕

- ①白菜を細長く切る（縦に 5、6 等分する）。
- ②お湯を沸かして、さっとゆがく（30 秒くらい）。
- ③水で洗って、水切りをする。
- ④にんにくは、包丁でつぶして、あらく切る。
- ⑤ねぎはみじん切りする。
- ⑥にんにくとねぎ、及びすべての調味料を入れて、調理手袋をして、味がなじむまでよくまぜる。

ほうれん草でもおいしく召し上がれます。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



わたしたちのために 嘆願して下さるおかた



ある明るい晴れた日に、ジョニーは
放課後に野外で自由な時間を楽しんでいました。

リビングルームの窓から、お母さんが呼びました、「ジョニー、そのかた
いボールであんまり家の近くでは遊ばないでね」。

「オーケー」ジョニーは、静かなどろ道へ向かいながら、約束しました。
自分の犬と「とりっこ」ゲームをするためです。

とつぜん、ジョニーの近所のお友だちのバッドが道をぶらぶら歩いてき
ました。

「ヘイ、ジョン、何をもっているんだい？」バッドはたずねました。

「野球ボールだよ。ためしてごらんよ!」。ジョニーは自分の新しいボール
が気に入っていたので、それをバッドに投げてよこしながら、にっと笑いま
した。

「いいね!」とバッドが言うと、それをもうちょっと強い力で、ジョニー
に投げかえました。

そうしたらとつぜん、ガシャン!

そこには……窓から落ちて割れたガラスが家の中にちらばっていました。



……

そのとき、ジョニー
はだれかが自分のた
めに嘆願してくれる
人がいたらいいのに
と思いました。なぜ